

北八ヶ岳・黒百合ヒュッテ「ジャズの夕べ」山行報告

【山城】北八ヶ岳

【日程と天気】2016年9月10日（晴）～11日（曇）

【メンバー】CL 菊池・大木

【行程】

- 10日 千葉 3:30ー稲子湯 9:00ーシラビソ小屋ー12:44 中山峠ー14:23 東天狗岳ー
天狗の奥庭ー16:15 黒百合ヒュッテ（泊）「ジャズの夕べ」
- 11日 黒百合ヒュッテ 6:30ー中山展望台ー白駒池ーニューーシャクナゲ尾根ー14:30
稲子湯ー帰葉



・北八ヶ岳には種々の思い出がある。10 数年前に山口耀久の随筆集、「北八ツ彷徨」「八ヶ岳挽歌」を Amazon から購入して読み耽り、ちば山仲間と錦秋の北八ヶ岳のいろいろなルートをテント泊で楽しんだり、機動力のあるネイチャースキーでシラビソの森を駆けずり回ったりした。

数年前から趣のある山小屋泊や、山小屋でのイベントに興味湧いている。3月初めのシラビソ小屋泊ではステップソール細板・革靴で本沢温泉の露天風呂を楽しみ、東天狗岳と西天狗岳の鞍部から沢地形を滑走することができた。

10月第一週のオーレン小屋での「紅葉と地酒祭り」を職場の同僚夫妻と楽しんだ。

黒百合ヒュッテは以前から気になっていたが、通過したり、テント泊で利用したときに、覗いてみたことはあったが宿泊したことはなかった。小生はジャズに詳しくはないが、気楽に聞けるジャズは嫌いではない。要する easy listening 好みである。8月の終わりから秋には山小屋では音楽会など各種イベントが目白押しであり、お客さん獲得に躍起となっているようだ。3週間ほど前に4名で予約を入れてみたが、まだ十分余裕があった。結局、興味あるちば山メンバーもいたが、日程が合わないなどで、2名での参加となった。蓋を開けてみると大人気、100名を超す宿泊客で大盛況であった。小屋は改装されてトイレなど快適感が溢れ、お気に入りの山小屋として登録してもよいようである。

・やや長丁場となるが、相棒の希望もあり稲子湯からの入山とした。シラビソ小屋までは、初め緩い登山道であるが、後半は急な斜面であり、前回ネイチャースキーで下った時には苦勞した。今回小屋の若旦那がキャタピラで荷物を運んでいたが、後半は登山道とは別の緩い荷揚げ道路【?】を小屋まで上がって行ったが、ネイチャースキーで利用させていただくと助かるようである。



シラビソ小屋で小休憩後、トロッコ軌道の残る道を進み、中山峠に向けて次第に急斜面を登っていきます。雪のシーズンには見通しが良く、稲子岳岩壁の雄姿が見られるが、この時期、展望は効かず、中山峠直前の急斜面はかなりハアハアとなり呼吸を



整えながらの頑張りが必要です。冬場は踏み跡がしっかりしており、アイゼン登高は比較的楽であった記憶があります。中山峠

から少し進むと展望が開け、秋の空とシラビソの森・北八ツの山々・天狗岳など



目に飛び込んできてテンションがあがりますが、登山道は大きな石・岩の歩きにくい道が続き、疲れた足には堪えます。シラビソの木肌に付着した変わった苔（肌触りが抜群）に癒され、ついシャッターをきりました。この辺は積雪期には初級冬山登山のメッカとなりますが、やはりアイゼン登高の方がずっと歩きやすいのです。最後のガレ場を頑張ると1日目の目標の東天狗岳の山頂です。



硫黄岳の爆裂火口は相変わらず大迫力ですね。360度の大パノラマを満喫し記念撮影、時間的に西天狗岳は割愛し、神様の奥庭経由でヒュッテに向かいます。滑走した両天狗岳の鞍部からの沢ルートを観察しながらの下山が始まり、大岩ゴロゴロの下山道は疲れた老体にはきつく、バランスを崩さないように慎重にゆっくり下るため、時間がかかりかかりました。相棒はバランスよく先行し、喧騒の小屋前広場のベンチで休んで待っていました。ベンチのある小



屋前の広場はハイカーグループが既に宴会で盛り上がり華やいでいました。われわれも早速、宿泊の手続きを終え、生ビールと枝豆で乾杯となりました。テント場も 30 張余りの色とりどりのテントで埋め尽くされていました。

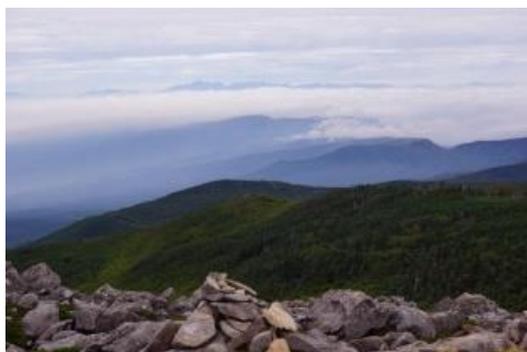
夕食後は本日のメインイベントのジャズコンサートです。ボーカルは中谷泰子さん、ピアノは青木弘武さん、観客も乗りに乗ってスイングしている方々もいますが、小生はせいぜい皆さんに合わせて手打ちをするだけです。魅力あふれる声量と軽快なタッチのジャズピアノが奏でる曲は全て知っているもので、つい口ずさんでしまいました。



「君の瞳に恋してる」「星に願いを」「愛しのエリー」「上を向いて歩こう」「G線上のアリア」などなど、一時間のライブが終

って外に出てみると、雲が晴れて星空が迎えてくれました。間もなく消灯時間、心地よい余韻に浸りながらいつの間にか就寝していました。

・2 日目は天気が徐々に悪化する予報であったが、午前中は高曇りで薄日が差していた。中山峠から中山展望台へと進む途中、天狗岳と硫黄岳、稲子岳を眺め、ショットに納



めた。中山展望台からは南・中央・北のアルプスの山並みが遠望できる。展望台付近の北西斜面は無木立で石がゴロゴロした斜面でネイチャースキーを楽しんだ思い出が蘇ってくる。高見石小屋までの下りは大きな石がゴロゴロした悪路、以前に不用意にバランスを崩し転げてしまった記憶があり、慎重にゆっくり下った。相棒に遅

れること 10 分ほどで漸く高見石小屋に到着。いつもの通り、森の中に静かに佇む白駒池を俯瞰した。白駒池は紅葉の時期には 2~3 週間早く、観光客も少ない。苔むした「にゆうの森」を経由してニュー（乳）に到着、ここもハイカーに人気のスポットであり、天狗岳方面の展望は格別であるが、ガスが掛かってきており残念ながら視界不良であった。



ここから稲子湯までは約 2 時間の行程である。

北八ヶ岳一帯は、ハイカーには魅力一杯のエリアでありリピートしたいが、登山道は、北西面や稜線付近は概ね、岩や大石の嫌なルートである。平衡感覚の鈍った高齢者にはバランスを崩さないよう気が抜けないエリアである。東面の登山道は岩や大石は比較的少なく歩きやすいルートである。ニューからの下山も分岐点からシャクナゲ尾根を経由して稲子湯に下るルートは利用する登山者は少ないが、概ね歩きやすく、曇天の暗くなってきた下山道をゆっくり下った。沢地形を 2 回ほど通過、シャクナゲ尾根に乗り移るあたりで小生の後頭部が突然「チクッ」と強い痛みが襲った。何かに刺されたのだ。手で探してみると小さなものが食いついている。払ってみると案の定、蜂であったが、スズメバチではなさそうで小さな蜂であった。トゲが残っているようで相棒にお願いし、小さな黒い針先様のトゲを取ってもらった。痛みがかなり強く、何らかの強い全身反応が起こると怖いため、手持ちの抗ヒスタミンを一錠服用した。信濃町勤務の頃には、この時期、蜂刺され急患が多く来院、ショック状態で担ぎ込まれた方も数名おられた。この場合のファーストチョイスは抗ヒスタミンの注射であり、必要に応じて強心剤・ステロイドなどを使用する。子供の頃から蜂刺されは数回あるが、局所はかなり腫れたが、全身反応が起こったことがなかった。やはり怖いため、予防的に抗ヒスタミン薬を持参することは有効であろう。痛みは暫く続いたが、結局、局所の反応も少なく問題なかった。

稲子湯で汗を流し、久しぶりに「八ヶ岳倶楽部」に寄り道して、ビーフカレーを食べた。柳生博さんと今は亡き長男の慎吾さんの育てた癒しの人気スポットであり、以前は愛犬ココ（今夏 18 才の誕生日直前で亡くなったチワワ）を連れて、ペンションに来

